



生活支援型



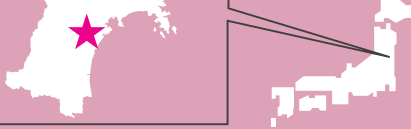
少子・
高齢化

地域
交流

なかやま商店街 振興組合

共同事業者：特定非営利活動法人中山街づくりセンター

宮城県仙台市青葉区



● 宮城県仙台市青葉区データ

人口(平成30年12月1日時点)	311,364 人
面積	302.1 km ²
人口密度	1,030.1 人/km ²
昼間人口	412,812 人
夜間人口	310,183 人
小売業年間販売額	595,243 百万円
小売業従業者数	20,065 人

出所：人口・面積・人口密度(面積と人口より計算)→自治体ホームページ
昼間人口・夜間人口→平成27年国勢調査
小売業年間販売額・小売業従業者数→平成28年経済センサス

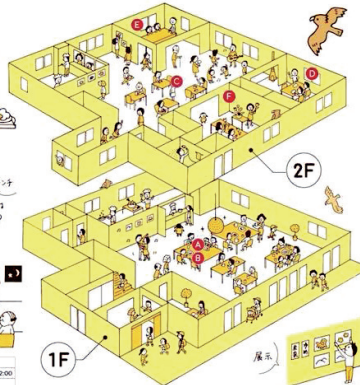
これであなとびのこハウスマスター！ とびのこハウス 施設ガイド

【1F】
カフェレストランなかやま
仙台市青葉区にある、子育て世代の集まる場所。
カフェ・レストラン・イベントスペース。
多世代が交流できる場所を創出しています。

【2F】
ナイトクラブなかやま
お酒を飲みながら、語り合う時間です。
おしゃべりやゲームなど、楽しく過ごせます。

【3F】
子どもクラブなかやま
子どもたちが遊ぶ場所。お母さんたちも交流できる場所です。

【4F】
多世代交流スペース
多世代が交流できる場所。おしゃべりやゲームなど、楽しく過ごせます。



「生涯現役世代」の活動拠点となる 多世代交流センターを開設



- 少子高齢化の克服と地域コミュニティ活性化を図り、空き家跡地を利用し多様な世代が集うことが出来る多世代交流センターを開設。
- 子育て世代のニーズに対応する児童クラブや寺子屋機能を持たせ、高齢者がサークル活動を楽しむ場としても活用。

商店街概況

- 住宅開発後40年を経過した住宅街の中になかやま商店街は形成。JR北山駅より徒歩圏内にあり、1.3kmのバス通りに店舗が立ち並ぶ。
- 主な利用者は近在の住民になり、食料品や日用雑貨の購入に利用。朝市や季節の祭りも企画し、地域住民とのコミュニケーションを図っている。

来街者数

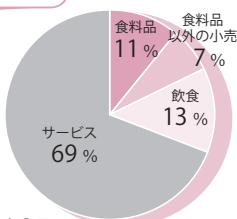
平日： 800 人 休日： 800 人 (平成30年10月)

ホームページ

<https://www.facebook.com/nakayama.syouten/>



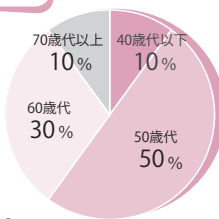
店舗の状況



総店舗数 107 店

業種構成 日常生活を支える場としての役割を果たす

組織の状況



会員数 49 人

年代構成 最多世代は50歳代だが、概ね各世代が揃っている状況にある

高齢化や子育てへの支援、空き家対策に課題

商店街近在の地域住民のニーズとしては子育て世代から「子育て関連サービス・施設が不足」の不満が挙げられ、増えて欲しい高齢者向け施設やサービスとしては「デイサービス」「レクリエーション施設」など交流できる施設のニーズが挙げられる状況にあり、また、商店街自体では集客の核となる店や魅力ある店、業種構成の不足による来街者・売上減少が課題であった。

事前調査の概要

ニーズ調査

- ・住民アンケート及びヒアリング調査
サービスや施設のニーズ、子育ての課題、日常的な食事、ボランティア意識に関するアンケート・ヒアリング
高齢者(中山地区内老人クラブ参加者)、子育て世代、連合町内会(小学校区)に対するアンケート
中山地域住民、買い物客に対するヒアリング調査 など

マーケティング調査

- ・統計データ調査
「仙台市全域と商圏に対する調査」など
- ・歩行者通行量調査
「2地点2日間での調査」など
- ・商圏分析調査
「4プロジェクトごとに分析」など
- ・空き店舗調査、空き家調査
なかやま商店街バス通り、連合町内会全世帯3800に対する調査 など

子育て世代を取り込む施策を実施することで、空き家対策や少子高齢化といった地域課題解決につながることを把握できた。

中山多世代交流センター 「とびのこハウス」開設

中山商店街エリア内で空き家になっている古くからある長屋を撤去解体した跡地を活用し地域の多様な世代が集うことのできるコミュニティの場となる中山多世代交流センター「とびのこハウス」を平成30年5月1日に開設。

多世代の居場所づくりや世代間交流、健康管理、引きこもり対策、地域の見守りなどを目的とした子どもから高齢者まで食事を楽しむことができる「みんなの食堂」、小中学生に学ぶ楽しさを伝える学習支援・居場所づくりを目的とした「寺小屋学習塾」、高齢者の健康寿命延伸を図る健康測定器の活用や健康測定会の開催、誤嚥予防や認知症予防プログラム、坂道の多い中山の地域特性を活かした中山健康体操や介護予防プログラムなどを取り入れ地域高齢者の健康づくりの拠点とする「健康ジム」、高齢者と若者世代が共に飲み語らう世代間交流の場となる「ソーシャルラーニングバー」を施設内で展開し、商店街と地域を結ぶ交流事業として商店街が地域住民向けに教室を開催する「まちゼミ」「住民の教室」も企画し、実施した。



平成30年5月1日開設のとびのこハウス



センター開設と併せて、とびのこハウス内やイベント予定の情報も発信。

認知拡大に向け「とびのこ通信」も発行。平成30年4月30日のオープニングレセプションの様子も伝えている。

多世代交流開設。 空家対策、子育て・高齢者支援を図る

商店街の立地する地域住民の「子育て関連サービス・施設」「高齢者向けの交流できる施設」のニーズと、商店街の課題となっていた集客の核となる魅力ある店や業種構成の不足による来街者・売上への減少を解消するものとして、「学ぶ」「遊ぶ」「食べる」「健康」「働く」をテーマに開設した中山多世代交流センター「とびのこハウス」は、長年空き家であった長屋を取り壊した空き地に建設。内部には飲食施設、貸しスペースを設け、かつ、少子高齢化対策・地域交流を担う事業を実施することで、地域住民の利便性向上が図られ、来街者増加により賑わいが創出されている。子育て世代の支持を獲得することになり、保護者が口コミ役となる波及効果も生まれ、メディアの露出も増加している。

今後は更なる地域住民のニーズに応えるものとして、子育て支援の為に児童クラブ設置や空き家の流通に向けてのセミナーなどに取り組みつつ、商店街の新規店舗が地域課題に取り組むことができるような支援体制を作っていく予定となっている。



事業の成果

BEFORE

- 商店街近在の子育て世代から「子育て関連サービス・施設が不足」が挙げられ、高齢者世代より「デイサービス」「レクリエーション施設」など交流できる施設のニーズが挙げられる状況。
- 商店街自体では集客の核となる店や魅力がある店、業種構成の不足による来街者・売上の減少が課題。



AFTER

- 「学ぶ」「遊ぶ」「食べる」「健康」「働く」をテーマにした多世代交流センターを開設し、飲食店・貸しスペースと併せて、子育て支援と高齢者の交流施設として機能。子育て世代・高齢者の不安を改善。
- 「とびのこハウス」が地域の中で消費活動を活発化させ集客の核となり、各世代の活動拠点として機能。来街者増とにぎわいを創出。